

基礎講座

第40回

人口爆発を防ぐ最良の方法

— 5歳未満児の死亡率を改善すること —

ユニセフは支援事業を実施する際に、3つの基準に照らしてその事業内容を決定していきます。その基準は、5歳未満の子どもの死亡率(=Under 5 Mortality Rate)、1人当たりの国民所得、子どもの人口です。その中でも5歳未満の子どもの死亡率は重要な支援基準となっています。これは子どもが1,000人生まれ、5歳の誕生日を迎えるまでに何人の子どもが亡くなるかを表した数値です。この数値は、母親の栄養状態や保健知識、家族の所得などが総合的に反映する指標で、この数値の善し悪しが子どもの生活状況を示しているのです。

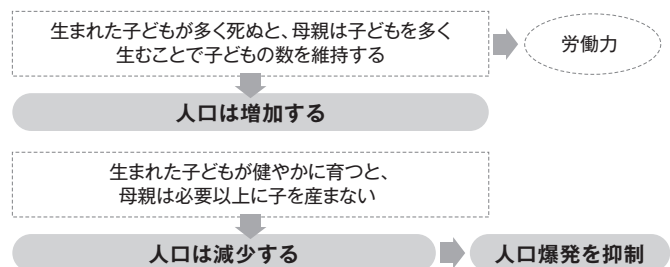


©日本ユニセフ協会
厳しい状況で暮らすお母さんと子ども(インド)

ユニセフの支援活動や受益国それぞれの努力によって死亡する子どもの数が減ると、20年~30年間の長期の期間で見た時、人口は増えるのでしょうか? それとも減るのでしょうか? 人口統計学的に得られた結果によると、5歳未満児の死亡率が減少すると人口は減少していきます。少死は少産につながるのです。(【図表1】参照)

子どもが1,000人生まれ、5歳までに亡くなる数が2桁(99人以下)になると、人口が落ち着きだすと言われています。これにより、開発途上国の経済に対する負担が軽減し、開発が促進されます。人口爆発を防ぐ最良の方策は、子どもの死亡率を下げることなのです。

◆ 図表1: 5歳未満児の死亡率が減少すると人口は減少する
~少死は少産につながる~



*中国やインドのような人口が既に多い国は別の政策の必要あり

図表2のように、アフガニスタンでは、1,000人の子どもが生まれて5歳になるまでに199人が亡くなっています。つまり、5人に1人は5歳の誕生日を迎えることができません。また、この5歳未満の子どもの死亡率と平均余命との象徴的な関係を読み取ることができます。それは、平均余命の短い国では、幼い子どもたちが亡くなっているという事実です。ある国に国民が2人いたとします。そのうち1人は生まれてすぐに何らかの理由で亡くなり、もう一人が長生きして88才まで生きたとします。その場合、平均余命は44歳になります。アフガニスタンでは、まさしくこれが起きている

のです。平均余命の短い国では成人が亡くなるのではなく、子どもが亡くなっているのです。子どもを取り巻く環境の厳しさが、平均余命を下げています。つまり、U5MRの改善が平均余命を伸ばすことになり、これによって人口爆発が食い止められるのです。

◆ 図表2: 5歳未満児の死亡率と平均余命の関係

(2009年度)	5歳未満児の死亡率	平均余命
チャド	209	49
アフガニスタン	199	44
コンゴ民主共和国	199	48
ギニアビサウ	193	48
シエラレオネ	192	48
日本	3	83

出典:「世界子供白書2011(英語版)」

5歳未満の子どもの死亡数は2010年に810万人まで減りました。1970年に約1,700万人の子どもの命が失っていたことと比較すると、顕著な形で減少してきたこととなります。【図表3】の前進の速度(「世界子供白書2011(英語版)」P.127)はその改善の流れを示しています。

5歳未満の子どもの死亡率は、就学水準など一定の指標ではなく、開発過程の最終的結果を示すものです。また、5歳未満の子どもの死亡率は平均の落とし穴に陥ることが少ない基準です。これは一人当たりの国民総生産のように、所得などの人為的な尺度では貧富に1,000倍もの開きがありえらとしても、自然の尺度ではそうしたことはありえないからです。豊かな人々の子どもだからといって、貧しい人の子どもより1,000倍長生きすることはないからです。つまり、5歳未満の子どもの死亡率は豊かな少数者の存在によって大きく影響されないため、子どもの健康状態について、より正確な現状を示せるのです。ユニセフが国の子どもの状態を示す最も重要な指標として5歳未満の子どもの死亡率を選んだのもそのためです。【図表3】の前進の速度は、5歳未満の子どもの死亡率を低下させた国の多くが出生率を低下させていることを表しています。人口爆発の抑制には5歳未満の子どもの死亡率を低下させることが一番良い方法であることを示しているのです。

◆ 図表3: 前進の速度

... TABLE 10

	5歳未満児死亡率			合計特殊出生率		
	1970	1990	2009	1970	1990	2009
ナミビア	103	73	76	48	6.5	5.2
ネパール	237	142	85	48	6.1	5.2

【世界子供白書2011(英語版)より翻訳】

出典:「世界子供白書2011(英語版)」